

## II 専門教育科目

### ・ 専門基礎科目

科目区分		授業科目	配当年次	単位数	
				必修	選択
専門教育科目	専門基礎科目	教育原理	1①	2	
		保育原理	1①	2	
		保育者論	1①	2	
		保育内容総論	1②	1	
		小計(4科目)	—	7	0

科目名	教育原理					担当者名	副島 里美 荒井 聡史 (オムニバス)
	幼2種・保育士 (必修)						
ナンバリング	24E22A01	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発達と教育の必要性を理解する</li> <li>・現代に至るまでの教育思想の変遷とそれに関わる教育制度について理解する</li> <li>・現代の教育実践の取り組みを理解する中で今後の課題について探求する</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の意義・目的及び教育の制度について理解する</li> <li>・教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する</li> <li>・教育の現状と課題を探求する</li> </ul>						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について (担当: 全教員)					
	2	教育学の諸概念及び教育の本質と目標について (担当: 荒井聡史)					
	3	教育の意義と目的及び乳幼児期の教育の特性について (担当: 副島里美)					
	4	教育と子ども家庭福祉の関連性について (担当: 副島里美)					
	5	教育と子ども家庭福祉の関連性について (担当: 副島里美)					
	6	教育の歴史と思想 (1) 家族と社会による教育の歴史 (担当: 荒井聡史)					
	7	教育の歴史と思想 (2) 家庭や学校に関わる教育の思想 (担当: 荒井聡史)					
	8	教育の思想と歴史 (3) 諸外国と代表的な教育家の思想 (担当: 荒井聡史)					
	9	教育制度の基礎及び成立と展開について (担当: 荒井聡史)					
	10	教育法規と教育行政について (担当: 荒井聡史)					
	11	教育実践の基礎理論 (内容・方法・計画と評価) について (担当: 副島里美)					
	12	教育実践の多様な取り組みについて (担当: 副島里美)					
	13	生涯学習社会と教育について (担当: 荒井聡史)					
	14	現代社会における教育課題について (担当: 荒井聡史)					
15	授業のまとめ (担当: 全教員)						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		小テスト	授業の振り返り			40%	
		提出物	課題等の内容			20%	
		授業態度	授業への積極的参加、予習復習 (反転学習) の励行			10%	
		試験もしくはレポート	定期テストあるいはレポートの評価			30%	
教科書		北野幸子編著『改訂 子どもの教育原理』(建帛社) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)					
参考図書		適宜指示する					
準備学習		適宜指示する					
課題等に対するフィードバック方法		適宜指示する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1~4時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名		保育原理				担当者名	副島 里美 中野 明子 (オムニバス)
		保育士 (必修)					
ナンバリング	24E22A02	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の方法や内容の基礎的考え方を理解する</li> <li>・現代保育に至るまでの歴史的変遷を理解する</li> <li>・多様化社会での様々な配慮を理解する</li> <li>・諸外国の保育の現状を理解する</li> <li>・保育者としての専門性と質向上の必要性を理解する</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の保育の目標、方法、内容、特性や、現在の保育に至るまでの歴史的背景など、保育に関する基本的専門的な知識や考え方を理解する。</li> <li>・現代の保育における課題を理解し、自ら解決策を考えようとする意識を持つ。</li> </ul>						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について (担当: 全教員)					
	2	保育の理念と概念について (担当: 中野明子)					
	3	子どもの最善の利益と子ども家庭福祉 (担当: 中野明子)					
	4	保育の社会的役割と責任について (担当: 中野明子)					
	5	保育に関する法令と子ども・子育て支援新制度について (担当: 中野明子)					
	6	保育の実施体系について (担当: 中野明子)					
	7	保育所保育指針と保育所保育に関する基本原則について (担当: 副島里美)					
	8	保育における養護について (担当: 副島里美)					
	9	保育の目標と内容について (担当: 副島里美)					
	10	保育の環境と方法について (担当: 副島里美)					
	11	保育の過程とその循環について (担当: 副島里美)					
	12	保育の思想と歴史について (担当: 副島里美)					
	13	日本の保育の現状と課題について (担当: 副島里美)					
	14	諸外国の保育の現状について (担当: 中野明子)					
15	授業のまとめ (担当: 全教員)						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業の振り返り	小テスト、あるいは振り返りレポートの提出			40%	
		授業態度	授業への積極的参加、予習復習 (反転学習) の励行			20%	
		提出物	課題等の内容、時間の順守			20%	
		最終テストまたはレポート	定期テストあるいはレポートの評価			30%	
教科書	『改訂版 保育原理の基礎と演習』わかば社 保育原理～はじめて保育の扉をひらくあなたへ～第2版」株式会社みらい 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』, 厚生労働省 『保育所保育指針解説書』 (フレール館) 内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 (フレール館)						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	2時間程度を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名	保育者論					担当者名	中野 明子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24E22A03	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	今、保育者に求められている倫理観及び資質・能力を概説し、保育者の地位、身分、職務、及び研修の制度を知り、理解を深める。また、連携が必要とされる専門機関や行政組織、制度について等を学び、保育者間で育んでいきたい力（同僚性や実践的能力、保護者支援等）についての学びを深める。						
到達目標	①乳幼児保育教育の意義と保育者の役割を理解する。 ②保育者に求められる資質・能力を理解する。 ③保育者の守るべきサービス及び、保育者と専門機関との連携の必要性を理解する。 ④保育者間の連携、協働について理解する。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	公教育の目的と教員の存在意義について					
	3	教職の職業的な特徴と教員の役割及び資質について					
	4	教員の職務内容とサービス上・身分上の義務について					
	5	保育者の役割と倫理について					
	6	保育士の制度的な位置付けについて					
	7	保育者の専門性について					
	8	保育士の資質と能力について					
	9	養護及び教育の一体的な展開について					
	10	家庭との連携と保育者に対する支援について					
	11	保育者の連携と協働（職員間及び関係機関等）について					
	12	保育者の連携と協働（専門職間及び専門機関）について					
	13	保育者の資質向上とキャリア形成について					
	14	保育者の資質向上のための研修と学び続ける意味について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		レポート及び感想文	課題は授業内容に沿って捉えたこと理解を深めた内容について等記述			30%	
		授業態度	グループディスカッション等に意欲を持って参加しているか評価			10%	
		試験	筆記試験。保育者の役割等の理解力を問う			60%	
教科書		今に生きる保育者論 第4版 著者名：編集代表 秋田喜代美・中野明子 発行所：株式会社みらい					
参考図書		「保育者のための外国人保護者支援の本」かもがわ出版					
準備学習		次回のシラバスを確認。教科書および関連する報道等に関心を持ち、授業に臨むこと。					
課題等に対するフィードバック方法		授業で課した課題(レポート等)は作成し提出。返却時にコメントを添え、学びに繋げていく。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を奨励します。					
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連		幼稚園教諭、認可保育園園長の現場経験を活かして、保育者に求められる倫理観及び資質・能力、専門機関や行政組織との連携などの体験を交えて指導する。					

科目名	保育内容総論					担当者名	副島 里美
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24E22A04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践を5領域を通して総合的に考える</li> <li>・乳幼児の発達を生活や遊びの中で具体的に捉える</li> <li>・乳幼児の指導計画と評価を実際の姿から考える</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の考え方や内容について理解する</li> <li>・保育の様々な場面を5領域という総合的な視点から考察する</li> <li>・「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容との関連を理解する</li> </ul>						
授業計画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領と保育所保育指針及び保育内容の歴史的変遷について					
	2	各領域のねらいと内容及び指導上の留意点と評価の考え方について					
	3	領域ごとの内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりについて					
	4	幼児の発達に即した保育の構想と情報機器や教材の活用法について					
	5	幼児の発達や実態に即した具体的な保育の過程と指導案の作成について					
	6	保育を改善する視点と各領域の特性に応じた保育実践の動向について					
	7	養護及び教育の一体的な展開する保育と多文化共生の保育について					
	8	長時間の保育及び特別な配慮を要する子どもの保育について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業の振り返り	小テスト			40%	
		提出物				20%	
		授業態度				10%	
		最終テストあるいはレポート				30%	
教科書	特になし						
参考図書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

## II 専門教育科目

### ・ 専門基幹科目

科目 区分		授業科目	配当年次	単位数	
				必 修	選 択
専門 教育 科目	専門 基幹 科目	幼児と健康	1②		1
		幼児と人間関係(集中講義)	1②		1
		幼児と環境	1②		1
		幼児と言葉(集中講義)	1②		1
		幼児と表現(音楽表現)	1③		1
		幼児と表現(造形表現)	1③		1
		教育心理学	1④		2
		保育の心理学	1③	2	
		特別支援教育・保育論 I	1④	1	
		保育・教育課程論	1②	2	
		幼児理解	1③		1
		乳児保育 I	1④		2

科目名		幼児と健康				担当者名	白金 俊二	
		幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング		24E23A01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容		「健康」とは何かを大きな主題として、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などについての知識を身に付ける。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の身体的な諸機能の発達や健康課題等について説明できる</li> <li>・ 幼児の安全な生活とけがや病気の予防について理解できる</li> <li>・ 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる</li> </ul>						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	健康の定義と意義及び乳幼児期の運動発達などの健康課題について						
	2	乳幼児の体の発達のな特徴と乳幼児の生活習慣の形成と意義について						
	3	幼児にとっての危険な場所や遊び方について						
	4	幼児期の怪我の特徴と病気の予防について						
	5	幼児の安全教育及び健康管理と安全管理について						
	6	乳幼児期の運動発達の特徴及び多様な動きの獲得と意義について						
	7	日常生活における幼児の動きと身体活動のあり方について						
	8	身近な環境や遊具などを活用した多様な動きについて						
成績評価方法と基準		評価方法			評価基準			割合
		課題レポート			課題の主旨を理解した内容とまとめ方			40%
		成果物提出、発表			授業内の成果物の提出状況や発表内容			30%
		小テスト			授業内での小テストの正答率			30%
教科書		保育内容健康（光生館）						
参考図書		幼児期運動指針（文部科学省）「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
準備学習		予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく						
課題等に対するフィードバック方法		添削をし返却をする						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する						
その他 留意事項								
実務経験と授業内容の関連								

科目名		幼児と環境				担当者名	副島 里美
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		24E23A03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践を5領域を通して総合的に考える</li> <li>・乳幼児の発達を生活や遊びの中で具体的に捉える</li> <li>・乳幼児の指導計画と評価を実際の姿から考える</li> </ul>					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の考え方や内容について理解する</li> <li>・保育の様々な場面を5領域という総合的な視点から考察する</li> <li>・「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容との関連を理解する</li> </ul>					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領と保育所保育指針及び保育内容の歴史的変遷について					
	2	各領域のねらいと内容及び指導上の留意点と評価の考え方について					
	3	領域ごとの内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりについて					
	4	幼児の発達に即した保育の構想と情報機器や教材の活用法について					
	5	幼児の発達や実態に即した具体的な保育の過程と指導案の作成について					
	6	保育を改善する視点と各領域の特性に応じた保育実践の動向について					
	7	養護及び教育の一体的な展開する保育と多文化共生の保育について					
	8	長時間の保育及び特別な配慮を要する子どもの保育について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		授業の振り返り		小テスト		40%	
		提出物				20%	
		授業態度				10%	
		最終テストあるいはレポート				30%	
教科書		コンパクト版保育内容シリーズ『環境』谷田貝公昭監修 一藝社 『学びを支える保育環境づくり』高山静子著 小学館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）					
参考図書		適宜指示する					
準備学習		適宜指示する					
課題等に対するフィードバック方法		適宜指示する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1時間～2時間程度を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							



科目名		幼児と表現（音楽表現）				担当者名	浅倉 恵子
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		24E23B05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		手遊びを導入として展開する幼児の音楽表現活動の援助法を、実践的に学ぶ。					
到達目標		手遊びを導入とする幼児の音楽表現活動の援助法を身につける。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「音楽表現」の位置づけについて					
	2	幼児の音楽表現を生成する過程について					
	3	音楽表現の知識と技能について（1）ピアノの伴奏方法					
	4	音楽表現の知識と技能について（2）弾き歌いの技能					
	5	音楽表現の知識と技能について（3）手遊びと指導方法					
	6	音楽表現の知識と技能について（4）子どもが歌うための援助方法					
	7	音楽表現の知識と技能について（5）幼児歌曲（童謡と遊び歌）					
	8	音楽表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		平常点評価		授業への取り組み姿勢、模擬保育の準備を評価する		60%	
		試験		実技課題の達成度を評価する		40%	
						%	
						%	
教科書		『手遊びから音楽身体表現あそびへー指導案で示した保育の展開例ー』 浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』 成美堂出版、2023年					
参考図書							
準備学習		模擬保育を担当するときは、準備物を工夫し、準備・練習する					
課題等に対するフィードバック方法		実技練習についてはその都度講評、解説を行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習およびピアノの練習に1～4時間を奨励する。					
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名		幼児と表現（造形表現）				担当者名	水野 道子
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		24E23B06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		①造形技法、道具、素材を知り実際に使いこなすことができるようにする。 ②園生活の年間行事や子どもの発達に応じた保育計画案の作成により実践の基礎力を身につける。					
到達目標		①造形技法、道具、素材を使って、教材の工夫や用具を使いこなせるようになる。 ②造形表現活動の保育指導計画を立てることができるようになる。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「造形表現」の位置づけについて					
	2	幼児の造形表現を生成する過程について					
	3	造形表現の知識と技能について（1）画材の知識					
	4	造形表現の知識と技能について（2）色彩の知識					
	5	造形表現の知識と技能について（3）造形の技法					
	6	造形表現の知識と技能について（4）造形のための援助方法					
	7	造形表現の知識と技能について（5）制作の技法					
	8	造形表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		授業平常点		授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する		20%	
		レポート		課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか		30%	
		課題提出		製作課題の主旨を理解し、工夫し提出できたか		50%	
						%	
教科書		「保育をひらく造形表現」槇英子 萌文書林、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館					
参考図書		必要に応じその都度、提示する。					
準備学習		あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。					
課題等に対するフィードバック方法		課題に対して返却時における講評、解説を行う。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。					
その他 留意事項		必要に応じ周知する。					
実務経験と授業内容の関連							

科目名	教育心理学					担当者名	三和 秀平
	幼2種（必修）						
ナンバリング	24E23B07	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	心身の発達の過程と特徴及び発達の概念と教育における発達理解の意義、様々な学習形態と概念や過程を解説したうえで、主体的な学習を支える動機づけや集団づくりと学習評価のあり方及び指導の基礎を学習する。						
到達目標	主体的な学習活動を支える指導と考え方について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	心身の発達の過程と特徴について					
	3	心身の発達に対する外的及び内的要因について					
	4	外的要因と内的要因の相互作用について					
	5	発達の概念と教育における発達理解の意義について					
	6	乳幼児期から青年期における運動発達について					
	7	乳幼児期から青年期における認知発達について					
	8	乳幼児期から青年期における社会性の発達について					
	9	発達を踏まえた学習を支える指導について					
	10	様々な学習形態と概念及び過程について					
	11	主体的な学習活動を支える動機づけについて					
	12	主体的な学習活動を支える集団づくりについて					
	13	主体的な学習活動を支える学習評価のあり方について					
	14	主体的な学習活動を支える指導と考え方について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		参加態度、課題	授業への参加意欲、取組みの姿勢を評価する。			30%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出されているかを評価する。			70%	
教科書	教育心理学（やさしく学ぶ教職課程），児玉 佳一（編集），学文社						
参考図書	随時紹介する。						
準備学習	授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき，あらかじめ教科書に目を通し，予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	次回の授業でフィードバックを行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	原則として紙の資料の配布は行わず，オンライン上で資料を配布する。オンラインで作業することもあるため，パソコンを持参することが望ましい。						
実務経験と授業内容の関連							

科目名	保育の心理学					担当者名	瑞穂 優 中野 明子 (オムニバス)
	保育士 (必修)						
ナンバリング	24E23B08	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・③
授業内容	身体発達、認知、言語、情動、社会性等の発達過程やその基盤にある発達のしくみや理論、発達の遅れや偏りに関する基本的な知識を得るとともに、子どもの発達をうながす人との関係や保育環境について学ぶ。						
到達目標	保育実践に関わる発達理論等の基礎的な知識を習得する。 発達を捉える視点を獲得し、子どもの学びを支える保育実践について理解を深める。 乳幼児期の子どもの学びが人との関係を基盤として環境を通して行われることを理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について (担当: 全教員)					
	2	子どもの発達を理解する意義について (担当: 瑞穂優)					
	3	子どもの発達の特徴と環境について (担当: 瑞穂優)					
	4	発達理解の現代的な視点について (担当: 瑞穂優)					
	5	発達支援の総合的な視点について (担当: 瑞穂優)					
	6	乳幼児期の社会情動的発達について (担当: 中野明子)					
	7	身体的機能と運動機能の発達について (担当: 中野明子)					
	8	認知の発達過程について (担当: 中野明子)					
	9	言語の発達傾向について (担当: 中野明子)					
	10	発達に遅れや偏りがある子どもの理解と支援について (担当: 瑞穂優)					
	11	発達段階ごとの特徴と課題について (担当: 中野明子)					
	12	乳幼児期の学びに関する理論について (担当: 中野明子)					
	13	乳幼児期の学びの過程と特性について (担当: 中野明子)					
	14	乳幼児期の学びを支える保育実践について (担当: 中野明子)					
15	授業のまとめ (担当: 全教員)						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業への積極的な取り組み	授業への積極的な取り組み			30%	
		課題	授業の中での課題			20%	
		筆記試験	問題の正答率			50%	
教科書	無藤隆・掘越紀香・丹羽さかの・古賀松香 編著 保育の心理学: 子どもの育ち・学びを知る (乳幼児教育・保育シリーズ) 光生館						
参考図書	授業中に紹介する						
準備学習	事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	授業中に解説を行うとともに、提出された課題の返却時にはフィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1~4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名	特別支援教育・保育論 I					担当者名	副島 里美
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24E24C08	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における「特別な支援を必要とする子ども」について学ぶ</li> <li>・特別な支援の子どもの実態について、様々な事例を考える</li> <li>・特別な支援の方法について学ぶ</li> <li>・特別な支援を必要とする保護者へのかかわりについて学ぶ</li> <li>・特別な支援と他機関との連携について学ぶ</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する子どもの教育体制を理解する</li> <li>・特別な支援を要する子どもの支援の方法を理解する</li> <li>・特別な支援を要する子どもの家族に対する支援方法を理解し、連携機関につなげることができる</li> </ul>						
授業計画	回	内 容					
	1	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み及び歴史について					
	2	特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と学習の過程について					
	3	様々な障害のある幼児の教育上及び生活上の困難について					
	4	特別の支援を必要とする幼児に対する支援の方法について					
	5	通級指導及び自立支援の教育課程上の位置づけと内容について					
	6	個別の指導計画及び教育支援計画の作成の意義と方法について					
	7	専門職や関係機関及び家族との連携による支援体制の構築について					
	8	特別の教育ニーズのある幼児の学習上又は生活上の困難と対応について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業の振り返り	授業の振り返り				40%	
	授業態度	授業への積極的参加、予習復習（反転授業）の励行				10%	
	提出物					20%	
	最終課題	(テストあるいはレポート)				30%	
教科書	柴崎正行ほか『障がい児保育の基礎』（わかば社）						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間程度を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名	保育・教育課程論					担当者名	瑞穂 優 杉浦 英樹 (オムニバス)
	幼2種・保育士(必修)						
ナンバリング	24E23A10	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・②
授業内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学び、保育のねらいや内容についての知識を習得する。保育における指導計画の意義について理解し、PDCAサイクルを行うことで保育の質を高めることを学ぶ。立案の具体的な方法について学び、実際に立案してみる。						
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての知識を得る。長期指導計画と短期指導計画の関係が理解でき、計画を立てることで保育の質が向上することを理解する。実際に長期指導計画、短期指導計画の立案ができるようになる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について(担当:全教員)					
	2	幼稚園教育要領の性格と位置づけ及び改訂の変遷と内容について(担当:杉浦 英樹)					
	3	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領の内容について(担当:杉浦 英樹)					
	4	教育課程編成の目的と役割及び機能と編成の方法について(担当:杉浦 英樹)					
	5	保育における計画と評価の意義及び保育の過程について(担当:瑞穂優)					
	6	保育の目標と計画の考え方について(担当:瑞穂優)					
	7	全体的な計画と指導計画の関係性について(担当:瑞穂優)					
	8	全体的な計画の作成について(担当:瑞穂優)					
	9	指導計画(長期的・短期的)の作成について(担当:瑞穂優)					
	10	指導計画作成上の留意事項について(担当:瑞穂優)					
	11	保育の記録と省察及び自己評価について(担当:瑞穂優)					
	12	保育の質向上に向けた改善の取組(PDCAの方法)について(担当:瑞穂優)					
	13	カリキュラム・マネジメントの意義と重要性について(担当:杉浦 英樹)					
	14	カリキュラム評価の考え方について(担当:杉浦 英樹)					
15	授業のまとめ(担当:全教員)						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業態度	授業への積極的な取り組み			30%	
		課題	授業中の課題(提出状況および内容)			40%	
		期末課題	レポート課題(課題の主旨を理解し、まとめられているか)			30%	
教科書	河邊 貴子著 新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論 東京書籍						
参考図書	杉浦英樹 編著 遊び込む子どもを支える幼稚園カリキュラム:未来の幼児教育・保育のために 学文社						
準備学習	事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	授業中に解説を行うとともに、提出された課題の返却時にはフィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1~4時間を推奨する						
その他 留意事項	準備学習として指定された保育施設での観察実習を必須とする						
実務経験と授業内容の関連							

科目名	幼児理解					担当者名	上原 貴夫
	幼2種（必修）						
ナンバリング	24E23B11	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児理解の意義と発達や学びを捉える原理について解説し、幼児理解のための観察や記録の意義や目的に応じた観察法、幼児の生活や遊びの実態に即して、対応方法について学習する。						
到達目標	幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずきと、その要因を把握するための原理や対応の方法について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児理解の意義と発達や学びの捉え方について					
	2	幼児理解を深める保育者の基本的姿勢について					
	3	幼児理解の方法（1）観察と記録の意義と目的					
	4	幼児理解の方法（2）目的に応じた観察法					
	5	幼児理解の方法（3）省察と評価の意義と目的					
	6	幼児理解の方法（4）個と集団の関係を捉える意義と方法					
	7	幼児理解の方法（5）幼児の葛藤やつまずきの理解					
	8	幼児理解の方法（6）保護者の心情と対応の方法					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	課題提出	課題について主旨を的確に理解し、適切な方法で表現できて提出できていること。				20%	
	レポート	課題について調べて適切にまとめられて提出できていること。				20%	
	試験	課題の正答率				60%	
						%	
教科書	教科書「子ども理解と観察」（大久保・梶田編著 ななみ書房）を使用。他に授業中に適宜資料を配付する。						
参考図書	平成29告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
準備学習	新聞記事や書籍などを活用して幼児についての興味や関心を高める。						
課題等に対するフィードバック方法	講義の中で取り上げていく。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	学習や研究、活動に主体的に取り組むこと。						
実務経験と授業内容の関連	博士(教育学)。長野県短期大学名誉教授。第一種幼稚園教諭、保育士、第一種小学校教諭、学校心理士、上級教育カウンセラー						

科目名		乳児保育Ⅰ 保育士（必修）				担当者名	橋本 佳美
ナンバリング	24E23B13	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	乳児保育の意義と目的や歴史的変遷及び乳児保育の役割と機能について概説するとともに、保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について考察する。そのうえで、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育の内容と援助や配慮及び運営体制について学ぶとともに、乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学習する。						
到達目標	乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	乳児保育の意義と目的及び歴史的変遷について					
	3	乳児保育の役割と機能について					
	4	乳児保育における養護及び教育について					
	5	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる現状と課題について					
	6	保育所及び保育所以外の児童福祉施設における乳児保育について					
	7	家庭的保育等における乳児保育について					
	8	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について					
	9	3歳未満児の生活や遊びと環境について					
	10	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について					
	11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりについて					
	12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮について					
	13	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について					
	14	乳児保育における連携と協働について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		課題提出		課題が自分の言葉で考察されて記述できている		30%	
		試験		問題の正答率		60%	
		授業参加態度		発言したり提案したりできていたか		10%	
教科書		菊池篤子編(2022). ワークで学ぶ乳児保育Ⅰ・Ⅱ. みらい					
参考図書		①三池輝久他 赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻 睡眠・食事・生活の基本 ②林万里(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ビデオ教材：①赤ちゃんの1年（0-6か月）、赤ちゃんの1年（7か月以降） ②サクランボ坊や 1から5 ③発達診断の実際 乳児期から幼児期. 大槻書店（全6巻）					
準備学習		毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること					
課題等に対するフィードバック方法		提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連		助産師・看護師として産科・小児科・障害児施設で勤務した実務経験を活かし、乳児保育の意義と目的・役割と機能、保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について、実務経験を踏まえ授業を行う。					



## II 専門教育科目

### ・ 専門展開科目

科目 区分	授業科目	配当年次	単位数	
			必 修	選 択
専門 教育 科目	専門 展 開 科 目	保育内容指導法（健康）		1
		保育内容指導法（人間関係）オンデマンド		1
		保育内容指導法（環境）		1
		保育内容指導法（言葉）		1
		保育内容指導法（音楽表現）		1
		保育内容指導法（造形表現）		1
		教育相談		2
		子ども家庭福祉		2
		社会福祉		2
		子ども家庭支援の心理学		2

科目名	保育内容指導法（健康）					担当者名	白金 俊二
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24E24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	<p>幼児にとっての基本的な生活習慣の形成、怪我や病気の予防や安全について、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、子どもが健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の心情や動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。</li> <li>・ 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>・ 模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。</li> </ul>						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「健康」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「健康」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「健康」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「健康」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「健康」の模擬保育について					
	8	領域「健康」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		課題レポート	課題の趣旨を理解した内容とまとめ方			40%	
		成果物提出、発表	指導案など授業内の成果物の提出状況や発表内容			40%	
		模擬保育	指導案の計画に沿った保育の実践			20%	
教科書		保育内容の指導法健康（学術文芸出版）					
参考図書		幼児期運動指針（文部科学省）幼稚園教育要領解説（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）					
準備学習		予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく					
課題等に対するフィードバック方法		添削をし返却をする					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名	保育内容指導法（環境）				担当者名	副島 里美	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24E24B03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5領域における「環境」を理解する</li> <li>・保育にかかわる様々な実践を考えることによって、環境の在り方を考察する</li> <li>・保育にかかわる物的・空間的環境の構成について、発達に応じた保育環境を計画する</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」のねらいと内容を理解する</li> <li>・子どもの発達と環境のかかわりについて理解し、環境を整えることが子どもの発達や主体性に繋がることを理解する</li> <li>・計画した保育内容について、自分自身、あるいはお互いにアセスメントし、よりよい計画に繋げることができる</li> </ul>						
授業計画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「環境」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「環境」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「環境」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「環境」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「環境」の模擬保育について					
	8	領域「環境」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準			割合		
	小テスト	授業の振り返り			40%		
	授業態度				10%		
	提出物				20%		
	最終課題	テストあるいはレポート			30%		
教科書	大沢 裕『コンパクト 保育内容シリーズ 環境』（一藝社） 高山静子『学びを支える保育環境作り』（小学館） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）読み解く 障害児保育』（萌文書林）						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名		保育内容指導法（言葉）				担当者名	渡邊 望	
		幼2種（必修）						
ナンバリング		24E24B04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容		幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「言葉」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成、具体的な指導場面を想定して保育を構想する。						
到達目標		具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法が分かる。						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容について						
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について						
	3	領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について						
	4	領域「言葉」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について						
	5	領域「言葉」における保育の構想と指導案の構造について						
	6	領域「言葉」の具体的な保育を想定した指導案の作成について						
	7	領域「言葉」の模擬保育について						
	8	領域「言葉」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準				割合	
		確認テスト （筆記試験）	ことばの発達と保育者のかかわりについて40点満点 で筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価 する。				40%	
		指導案作成・模擬保育	指導案作成（20）子どもの姿、留意点が記され、実際 に保育が可能か否か、 模擬保育（10）声の大きさ、進め方、 振り返り（10）自己評価、今後の課題、 以上の観点で評価し配点する。				40%	
		授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する。				20%	
教科書		『保育内容（言葉）』同文書院 太田光洋編著 2021年						
参考図書		『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）						
準備学習		これまでに学修した、保育の基本や子どもの育ちなどについて、理解していることを前提に授業を進めます。2学期までの学びを確認したうえで受講してください。						
課題等に対するフィードバック方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。</li> <li>・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。</li> <li>・各課題、確認テストの振り返りは授業内で行います。</li> </ul>						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する						
その他 留意事項		<p>①毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。</p> <p>②絵本などの児童文化財は「知っている」だけではなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。</p>						
実務経験と授業内容の関連		保育所や幼稚園での保育経験を基に、幼児の言葉の発達と保育者の関わり、情報機器と教材の活用法、保育を想定した指導案の作成等、体系的に指導する。						

科目名	保育内容指導法（音楽表現）					担当者名	浅倉 恵子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24E24B05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	幼稚園教育要領や保育所保育指針を学び、指導案作成、模擬保育、振り返りをおこなう。						
到達目標	音楽表現の保育の展開を指導案作成に結び、指導計画について考えられるようにする。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「音楽表現」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「音楽表現」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「音楽表現」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「音楽表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「音楽表現」の模擬保育について					
	8	領域「音楽表現」の模擬保育と振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準	評価方法		評価基準			割合	
	平常点評価		授業への取り組み姿勢、模擬保育等の評価する			60%	
	筆記試験		指導案作成を評価する			40%	
						%	
教科書	『手遊びから音楽身体表現あそびへー指導案で示した保育の展開例ー』 浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』 成美堂出版、2023年						
参考図書							
準備学習	模擬保育の準備、ピアノの練習をおこなう						
課題等に対するフィードバック方法	試験前に、作成した指導案を添削し返却する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	毎回の授業の復習および模擬保育の準備、ピアノの練習等、1～4時間を奨励する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連							

科目名	保育内容指導法（造形表現）					担当者名	水野 道子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24E24B06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	子どもの「表現」に関する基礎的な事項について学ぶ。子どもの造形について発達の観点から知り、造形の遊びへと展開できる技術を身につけ保育計画や指導案を作成し模擬保育を行う。						
到達目標	①領域「表現」の内容について基礎的な知識を得る。②授業内での模擬保育を構築することができる。③保育者として自ら表現することの楽しさを感じ、子どもの発達に応じた表現の支援を行う力を身につける。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「造形表現」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「造形表現」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「造形表現」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「造形表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「造形表現」の模擬保育について					
	8	領域「造形表現」の模擬保育と振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業平常点	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		テスト	模擬保育の教材研究にかかわる試験での達成率			50%	
教科書	「表現指導法」上野奈初美編著 萌文書林、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館						
参考図書	必要に応じその都度、提示する。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。						
その他 留意事項	必要に応じ周知する。						
実務経験と授業内容の関連							

科目名		教育相談				担当者名	細渕 富夫
		幼2種（必修）					
ナンバリング		24E24B10	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期
授業内容		教育相談の意義と役割及び幼児の発達の状況に即しつつ、幼児の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリングの意義と理論や方法、幼児や保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備、組織的な取り組み及び専門機関等との連携について学習する。					
到達目標		教育相談の進め方と教育相談の計画の作成や校内体制の整備など、組織的な取り組み及び専門機関との連携について理解している。					
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	教育相談の意義と役割について					
	3	教育相談に必要な基礎知識（1）カウンセリングとは					
	4	教育相談に必要な基礎知識（2）カウンセリングの理論と技法Ⅰ（精神分析）					
	5	教育相談に必要な基礎知識（3）カウンセリングの理論と技法Ⅱ（自己理論）					
	6	教育相談に必要な基礎知識（4）カウンセリング技法Ⅱの理論と技法Ⅲ（行動療法）					
	7	子どもの発達と教育相談					
	8	教育相談におけるアセスメント					
	9	教育相談の進め方（1）障害児のある幼児・児童に対する教育相談（発達支援）					
	10	教育相談の進め方（2）保護者に対する教育相談（保護者支援）					
	11	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（1）いじめ					
	12	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（2）登園しぶり					
	13	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（3）虐待					
	14	教育相談の体制整備と多職種連携について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		コメントカード		授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか		20%	
		レポート		課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか		30%	
		試験		問題の正答率		50%	
教科書		住本克彦『教育相談』建帛社、2022年					
参考図書		特になし。					
準備学習		あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。					
課題等に対するフィードバック方法		返却時にコメント、解説を行う。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する					
その他 留意事項		ワークブック等を活用して理解を深める。					
実務経験と授業内容の関連		臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園、特別支援学校等で教育相談に従事してきた実務経験を活かし、教育相談の意義と役割、相談指導の手法と組織的な体制整備等、わかりやすく授業を行う。					

科目名	子ども家庭福祉					担当者名	副島 里美 中野 明子 吉澤 恵子 (オムニバス)
	保育士 (必修)						
ナンバリング	24E24B11	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・③
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達を考える上で、家庭福祉がいかに重要かについて学ぶ</li> <li>児童の権利について考える</li> <li>多様な保育(福祉)ニーズについて学ぶ</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの権利が家庭・園・地域の中でどのように守られていくべきかを説明することができる</li> <li>現代社会における多様な現状(少子化への対応、貧困家庭、虐待など)を理解し、支援方法を考えることができる</li> </ul>						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について(担当:全教員)					
	2	子ども家庭福祉の理念と概念について(担当:吉澤恵子)					
	3	子ども家庭福祉の歴史の変遷について(担当:吉澤恵子)					
	4	子どもの人権擁護の歴史の変遷について(担当:吉澤恵子)					
	5	児童の権利に関する条約について(担当:中野明子)					
	6	子ども家庭福祉の制度と実施体系について(担当:吉澤恵子)					
	7	児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職について(担当:吉澤恵子)					
	8	少子化と地域子育て支援及び母子保健について(担当:吉澤恵子)					
	9	多様な保育ニーズへの対応について(担当:副島里美)					
	10	子ども虐待及びDVとその防止について(担当:副島里美)					
	11	障害のある子どもへの対応について(担当:副島里美)					
	12	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について(担当:副島里美)					
	13	子ども家庭福祉の動向と展望について(担当:吉澤恵子)					
	14	海外の子育て支援の現状について(担当:中野明子)					
15	授業のまとめ(担当:全教員)						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		小テスト	授業の振り返り			40%	
		提出物	課題の内容を評価する			20%	
		授業態度	授業への積極的参加、予習復習(反転学習)の遂行			10%	
		最終課題	テストあるいはレポート			30%	
教科書	『家庭支援論・保育相談支援』学文社						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連	看護師、保健師としての行政機関での保健指導や健康教育等を行ってきた実務経験をもとに、子ども家庭福祉の基本的な考え方と子ども家庭福祉の動向と展望について講義する。						



科目名	社会福祉					担当者名	比田井 友香
	保育士（必修）						
ナンバリング	24E24B12	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、社会福祉の制度や法体系と社会福祉行政財政や社会福祉施設及び社会保障や関連制度を解説したうえで、その方法や技術について学習する。						
到達目標	社会福祉における相談援助の意義と機能や、対象と過程及び方法と技術について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	社会福祉の理念と概念について					
	3	社会福祉の歴史的変遷について					
	4	子ども家庭支援について					
	5	社会福祉の制度と法体系について					
	6	社会福祉行政財政と実施機関について					
	7	社会福祉施設と専門職について					
	8	社会保障及び関連制度について					
	9	相談援助の意義と機能について					
	10	相談援助の対象と過程について					
	11	相談援助の方法と技術について					
	12	利用者の保護に関わる仕組みについて					
	13	社会福祉の動向と課題について					
	14	諸外国の動向について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%	
		中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%	
		試験	問題の正答率			40%	
教科書	『子どもの未来を育む社会福祉』（2023年3月）ミネルヴァ書房						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と授業内容の関連	医療法人での精神科ソーシャルワーカーとしての経験と社会福祉協議会及び地域包括支援センターの相談員としての実務経験を活かし、社会福祉の概念や制度、社会福祉行政、社会福祉施設及び社会保障など関連する制度を体系的に説明し授業を行う。						

科目名	子ども家庭支援の心理学					担当者名	平澤 泉
	保育士（必修）						
ナンバリング	24E24B15	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について学ぶとともに、初期体験の重要性や発達課題、家族や家庭の意義と機能、親子関係や家族関係等について発達の観点から考察していく。						
到達目標	子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題及び子どもの精神保健とその課題について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	現代社会における子育て支援の必要性について					
	3	乳幼児期から学童期前期にかけての発達について					
	4	学童期後期から青年期にかけての発達について					
	5	成人期・老年期における発達について					
	6	家族・家庭の意義と機能について					
	7	親子関係・家族関係の理解について					
	8	子育ての経験と親としての育ちについて					
	9	子育てを取り巻く社会的状況について					
	10	ライフコースと仕事・子育てについて					
	11	多様な家庭とその理解について					
	12	特別な配慮を要する家庭について					
	13	子どもの生活及び生育環境とその影響について					
	14	子どもの心の健康に関わる問題について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	試験	問題の正答率				70%	
						%	
教科書	「子ども家庭支援の心理学 子どもを未来を支える家庭支援のあり方を探る」 著編／北川裕美子 他3名 著／小川綾子他12名						
参考図書	「シードブック 子ども家庭支援の心理学」 編著／本郷一夫、神谷哲司 「子ども家庭支援」 著者／倉石哲也、大竹智 出版社／ミネルヴェ書房						
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、2人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て家庭を支援する知識と技術を身に付ける。						
実務経験と授業内容の関連	ファミリー・サポート・センターアドバイザーや地域子育て支援拠点の主任保育士としての実務経験で得た知識と経験を活かし、子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題及び子どもの精神保健とその課題など具体例を交えて授業を行う。						